

学内の厚生施設拡充に向けて

大学当局は早期に交渉を持て!

——夏休みまでに持て、誠意ある態度を——

=組合員の声はここまで高まった!=

毎年行われている施設拡充要求運動は、今年も全学の組合員を通じて、力強い前進を示しました。まず、総代・生協委員を中心として集められた要求署名は、6月30日現在 6447に達し、昨年の5846を大きく上回り、史上最高の数字となりました。また、教養・医短のクラスを中心に、施設問題に関する決議が40(有志決議)あげられ基礎組織からの声を大学当局に訴えかけました。そして、6月17日には、南部施設集会が250名の参加で、20日には雨の中施設全学集会が700名の参加で行われ、わたしたち組合員の要求の大きさを示しました。

=現在の大学当局の態度は?=

これだけの組合員が厚生施設の拡充を望んでいる中、大学当局はいったいどのような態度をとっているのでしょうか。

昨年の12月21日に持たれたもっとも最近の交渉の確認を振り返ってみると、①既に決定している用地のテストピットは、1980年の2~3月中に行い、それに伴う本調査も1980年中に行う、②南部生協会館の拡充問題については、吉田問題が済みしだいすぐかかるという内容でした。この確認に基づいて、今年の2月には、テストピットが行われました。このテストピットは、そこに遺跡が埋まっているかどうかの試掘をするもので、予算化が実現する過程での大きな壁に相等するのです。しかし、この7月に入った今になっても大学当局は、テストピットの結果の正式発表を行っていません。

吉田厚生センターの実現を願う組合員、とくに1,2回生は、このテストピットの結果は、もっとも関心を寄せている部分です。用地が決まれば予算化が実現するといわれつづけてきたわたしたち組合員は、大学当局に一刻も早く、今の用地の全面調査をするのか、それとも新しい用地を再決定するのかの判断を下し、即実行してほしいと思っています。大学当局は、この組合員の声に対して誠実に対応する必要があります。

また、吉田問題の他に、南部組合員の切実な問題となっている南部生協会館拡充についても早期に実現するため努力するよう、わたしたちは大学当局に呼びかけます。その他、夏には切実極まる中央地下店舗の拡充・冷房、エスポワールの改装、各店舗の冷房化についても大学当局は意向を明白にする必要があります。

これらの諸問題について、大学当局の態度を組合員の前に明らかにするよう、交渉をもつよう要求します。しかも、この交渉の結果を待ちわびる組合員のために、夏休みに入る前のなるべく早い時期に持つ必要があります。大学当局はこの点で誠意ある態度をとるようにならなければなりません。



京大生協